『NHK年鑑』で振り返る放送の歴史④

NHKの長寿番組
～50年以上続く番組はいくつある?～

メディア研究部 居駒千穂

はじめに

「放送史料 探訪」ではこれまで史料としての『NHK年鑑』に着目して，「オリンピック」「皇室行事」「紅白歌合戦」と考察してきた。今回は「長寿番組」に焦点を当てることにしたい。

今回，対象にしたのは『NHK年鑑2022』の「第4部　番組解説」に掲載した，NHKの国内向けの定時番組，476番組である。

『年鑑2022』は2021年4月から2022年3月までに放送した番組を対象にしており，これから論述する内容は2022年3月現在のものであることをお断りしておく。

約90年，愛されている番組

さっそくだが，ここで簡単なクイズをお出ししたい。国際放送を除いたNHKの国内放送の定時番組のうち，最も長く放送を続ける番組は何かご存じだろうか。国内放送とは，総合テレビ，Eテレ，BS1，BSプレミアム，BS4K，BS8K，ラジオ第1，ラジオ第2，FMを指す。ここでは番組タイトルがついていないニュースや天気予報等は除く。ただし，番組名が途中で変更されている場合については同一番組としてカウントする。

答えは，『ラジオ体操』である。1928年11月に放送を開始し，1947年9月1日から3年8か月の間，放送を中断したが，1951年5月6日に放送を再開した。通算89年8か月，つまり約90年続いているということになる。番組の詳細は，『年鑑2022』の番組解説をご覧いただこう。

『ラジオ体操』

R1　月～日　6:30 ～ 6:40

R2　月～土　8:40 ～ 8:50，12:00 ～ 12:10，15:00 ～ 15:10

第1回28.11.1／47.9.1から4年間中断，51.5.6に放送再開／通常の放送は2か月ごとに新作を放送。後期から新ピアノ演奏者加入。53年に始まり，夏の風物詩として親しまれる「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」は，新型コロナウイルス感染症対策で中止。78年開始の「特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」も10月の山口県以外は中止。また，ラジオ体操会最大規模の「第60回1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」も中止とした。

これに続く長寿番組は，『のど自慢』と『日曜討論』（『国会討論会』が前身）である。ともに終戦直後の1946年にラジオ第1で放送を開始し，総合テレビで放送を続けている。放送開始から77年を迎えた。こちらも『年鑑2022』の番組解説を見ていこう。

『NHKのど自慢』

G R1　日　12:15 ～ 13:00

第1回46.1.19／『のど自慢素人音楽会』としてスタート以来，75年以上にわたり全国各地の出場者の歌を通して，人々の暮らしぶりや土地柄を浮き彫りにしてきた。21年度は全国37か所で実施予定だったが，新型コロナウイルス感染防止のため，15か所が中止。3月に予定していた「NHKのど自慢チャンピオン大会2022」も中止。

文中にもある『のど自慢素人音楽会』については，1948年に発行した『年鑑1948』でひもといてみることにしよう。

『のど自慢素人演芸会』

従来，歌謡歌手の新人募集を行ってきたが，終戦後において専門家を発見するのでなく，世間の歌いたい人に自由に歌ってもらう時間が欲しいというわけで生れたのが，のど自慢素人演芸会である。／（中略）募集方法はニュースにより応募（原文ママ）し，その人々を同時に割振って1日300人という大量のテストを行った。第1回の応募は800人　第2回は1,000人を突破し，その合格者は日曜日に随時放送した。／その後，演芸を加えることになり『のど自慢素人演芸会』となって発展（中略）。／23年3月23日の放送記念日に，NHKのど自慢全国コンクールが，神田の共立講堂において催され，未曽有の盛会であった。

戦後の荒廃と混乱の中で，ラジオは数少ない娯楽の中心であった。『のど自慢素人演芸会』の人気ぶりが当時の記事からもうかがえる。

こんなにもあった 50年以上続く番組

ではもう1問，お出ししたい。NHKの国内の定時番組476番組のうち，50年以上続く番組はいくつぐらいあるかご存じだろうか。

表1をご覧いただきたい。これは『年鑑2022』「第4部 番組解説」に記載された初回放送日から放送期間を割り出し，放送期間の長い番組から順に並べてみたものである。この表で見ると，**50年以上続く番組が29番組もあった。**

テレビ放送開始は1953年だが，上位10番組はそれより前から放送が始まっている。いずれもラジオしかない時代に始まった番組である。

『ラジオ体操』を含め70年以上続く番組は7番組，60～69年続く番組は17番組，50～59年続く番組が5番組，存在する。

表1を放送波別に見てみると，29番組のうち「Eテレ」は9番組，「ラジオ第2」は9番組，「総

表1　50年以上続く番組

順	放送波	タイトル	放送開始日	放送期間
1	ラジオ第1	『ラジオ体操』	1928年11月 1日	89年 8か月
2	総合テレビ	『NHKのど自慢』	1946年 1月19日	76年 2か月
3	総合テレビ	『日曜討論』	1946年 6月23日	75年 9か月
4	ラジオ第1	『音楽の泉』	1949年 9月11日	72年 6か月
5	ラジオ第1	『上方演芸会』	1949年 9月14日	72年 6か月
6	ラジオ第2	『宗教の時間』	1952年 1月 4日	70年 2か月
7	FM	『民謡をたずねて』	1952年 1月 9日	70年 2か月
8	ラジオ第2	『まいにちフランス語』	1952年 4月14日	69年11か月
9	ラジオ第2	『まいにちドイツ語』	1952年 9月 1日	69年 6か月
10	ラジオ第1	『ひるのいこい』	1952年11月 2日	69年 4か月
11	ラジオ第2	『NHK高校講座』	1953年 4月13日	68年11か月
12	ラジオ第2	『お話でてこい』	1954年11月 8日	67年 4か月
13	ラジオ第2	『まいにちスペイン語』	1956年 4月 1日	65年11か月
14	ラジオ第2	『まいにち中国語』	1956年11月 4日	65年 4か月
15	ラジオ第2	『まいにちロシア語』	1956年11月 4日	65年 4か月
16	FM	『現代の音楽』	1957年 4月 7日	64年11か月
17	Eテレ	『テレビ体操』	1957年10月 7日	64年 5か月
18	Eテレ	『きょうの料理』	1957年11月 4日	64年 4か月
19	Eテレ	『NHK高校講座』	1959年 1月12日	63年 2か月
20	Eテレ	『おかあさんといっしょ』	1959年10月 5日	62年 5か月
21	Eテレ	『NHK杯テレビ囲碁トーナメント』	1960年 7月 9日	61年 8か月
22	Eテレ	『NHK杯テレビ将棋トーナメント』	1960年 7月 9日	61年 8か月
23	総合テレビ	『みんなのうた』	1961年 4月 3日	60年11か月
24	総合テレビ	『連続テレビ小説』	1961年 4月 3日	60年11か月
25	ラジオ第2	『朗読』	1962年 4月 4日	59年10か月
26	総合テレビ	『大河ドラマ』	1963年 4月 7日	58年11か月
27	Eテレ	『きょうの健康』	1967年 4月 3日	54年11か月
28	Eテレ	『テレビで中国語』	1967年 4月 3日	54年11か月
29	Eテレ	『趣味の園芸』	1967年 4月 8日	54年11か月

（2022年3月末を基準に計算。2021年度内に放送終了した番組も含む。「4月放送開始，翌年3月終了」の番組は「11か月」としてカウントした）

合テレビ」5番組，「ラジオ第1」4番組，「FM」2番組と続く。

放送波によって異なる放送期間と傾向

ここからは国内放送の全476番組の1番組あたりの平均放送期間を放送波ごとに計算し，その傾向を見ていこう。

調べてみると放送波によって特徴が異なることがわかった。まず波別の平均放送期間は**表2**のとおりである。

表2　波別の平均放送期間

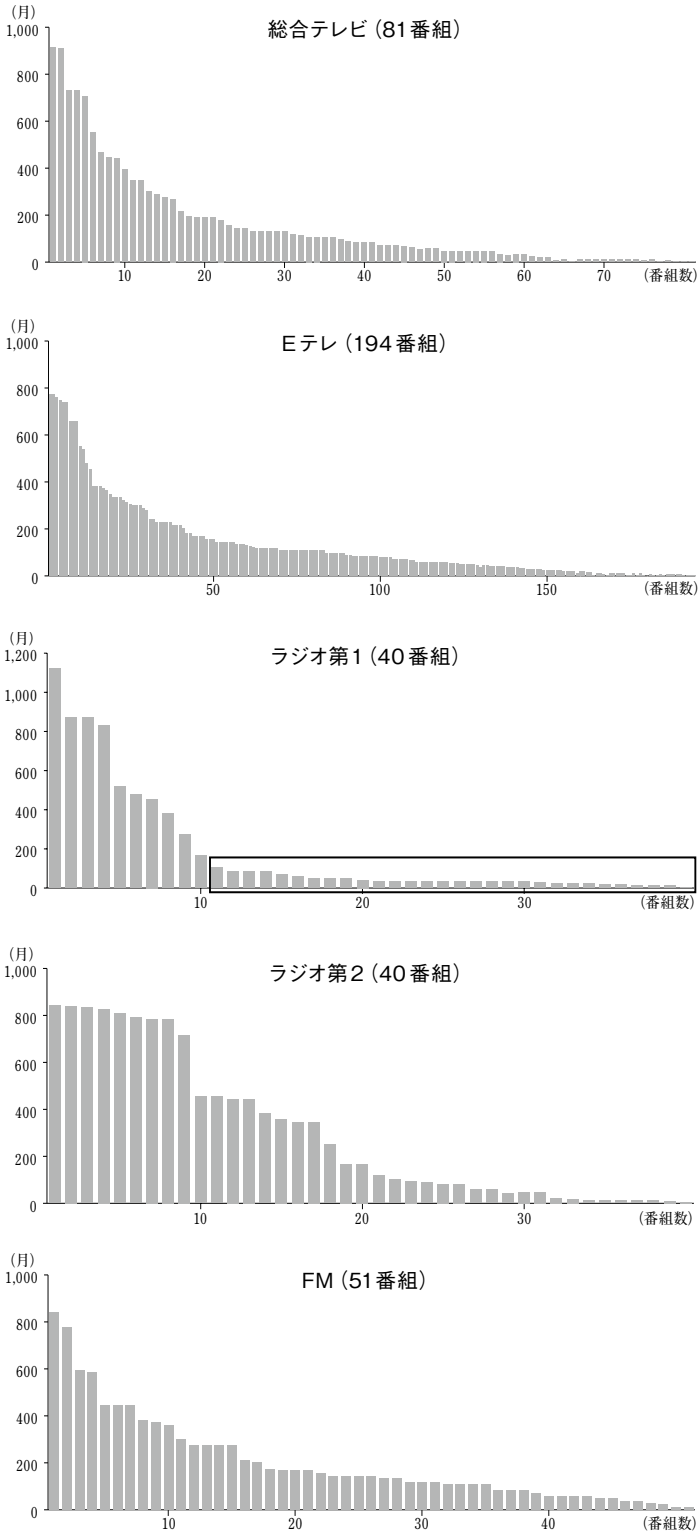
放送波	全番組数	平均放送期間
総合	81	13年 0か月
Eテレ	194	11年 4か月
BS1	23	8年 1か月
BSプレミアム	40	7年11か月
BS4K	7	1年 3か月
ラジオ第1	40	14年11か月
ラジオ第2	40	25年 0か月
FM	51	16年10か月

「ラジオ第2」の平均放送期間は，25年0か月と最も長い。これに続くのが「FM」で16年10か月，「ラジオ第1」は14年11か月であり，全体的にラジオで長い傾向にある。

ラジオ第2の40番組のうち，23番組は語学番組が占める。語学番組は継続聴取する傾向が高いため放送期間も長くなると考えられる。ラジオ第2の平均は，語学番組が押し上げたと見られる。

図1を見てほしい。これはそれぞれの放送波で，放送期間の長い

図1　波別の各番組放送期間（長い順）



順に番組を並べたものである。平均放送期間の短い衛星波は対象から除いた。縦軸が放送期間，横軸は個別の番組を表している。

「総合テレビ」「Eテレ」「FM」は全体としてなだらかな曲線を描いているのが特徴で，グラフの形は3つともよく似ている。一方，「ラジオ第1」は上記3つの波と傾向が異なる。長く続く番組がある一方で，10～20年のミドルクラスの番組が少なく，四角で囲ったように10年以内の番組が4分の3を占める。「長寿番組」との二極分化が進んでいるように見られる。

「ラジオ第2」は先ほども少し触れたが，語学番組が多くを占めることもあり，全体に長く続く番組が多いのがグラフからも見てとれる。

惜しまれつつも，最終回

最後に，2022年3月末までに「最終回」を迎えた番組について見ていこう。全476番組のうち，最終回を迎えたのは80番組で，全体の約17%にあたる。

30年以上放送してきた番組の中では，3つの番組が最終回を迎えた。『バラエティー生活笑百科』（総合テレビ），『ろうを生きる 難聴を生きる』（Eテレ。2022年度からは『ハートネットTV』の中で“#ろうなん～ろうを生きる難聴を生きる～”として放送），『朗読』（ラジオ第2）である。

『NHK年鑑2022』「番組解説」から『バラエティー生活笑百科』の記事を引用して見ていこう。

『バラエティー生活笑百科』

土　12:15～12:40

第1回85.4.6，最終回22.4.9／身近なトラブルを漫才で紹介し，相談員がユーモアあふれる討論を展開するバラエティー番組。「四角い仁鶴がま～るくおさめまっせ」のフレーズで全国的に親しまれた相談室長の笑福亭仁鶴さんが8月17日に亡くなり，追悼番組を9月11日に放送した。（以下略）

スペースの関係でここではすべてを掲載できないが，ぜひ続きは『NHK年鑑2022』でご覧いただきたい。『バラエティー生活笑百科』は388ページに掲載している。『年鑑2022』は以下からアクセスすることができる。

『NHK年鑑2022』https://www.nhk.or.jp/bunken/book/regular/nenkan/nenkan_2022.html

これから

ここまで長寿番組について見てきた。NHKは2022年12月の経営計画修正案の中で，2024年3月には現在2波あるBS右旋の2K放送のうち1波を停波し，2K1波，4K1波体制とすることを公表し，2023年1月10日の経営委員会で議決された。

今後は放送波の再編により編成全体が見直され，人々のニーズや時代の変化に呼応した編成に生まれ変わっていくだろう。

長寿番組は時代を映す鏡である。長く人々に親しまれ，放送が続いてきた番組が，今後どのような姿に形を変えていくのか。その動向を『NHK年鑑』の編集を通して，見守っていきたい。

（いこま ちほ）

※一部引用部分については，旧字体を新字体に，漢数字をアラビア数字にした。